



西小だより

山形市立西小学校
令和6年11月15日
校長 小林 聡

【学校教育目標】未来への夢をもって、豊かに学び、しなやかでたくましい子どもの育成

校庭のけやきや桜の木々もすっかり色づき、秋の深まりを感じます。色とりどりの落ち葉を集めたり、下に隠れている虫を探したりして楽しむ下級生、ほうきを持ってきて落ち葉を上手に掃き集める上級生。味わい方はそれぞれでも、季節の移り変わりを感じさせてくれる自然が身近にあるのは本当に幸せなことです。



「自主性」から「主体性」へ 自らを育む

子どもの育ちについての話になる時、しばしば「主体性」や「主体的」という言葉を耳にします。似ている言葉に「自主性(的)」がありますが、それとの違いはどんなところなのかいっしょに考えていきたいと思います。

先日、こんなことがありました。登校途中、2年生の子が歩道で嘔吐してしまいました。班長は副班長に下級生を連れて学校まで行くように話し、自分はその子が落ち着くのを待ってから、自宅まで送り届けてくれました。

また、学習に関することでは担任からこんなことを聞きました。総合や社会科で学習したスーパーマーケットの食品に関心が高まり、買い物について行くたびに陳列棚を観察したり、それぞれの店の工夫に気づいたりしていったそうです。そのうち、どうしても確かめたい、確かめずにはいられないことが出てきて、店員さんに質問し、今後もまたいろいろ教えていただきたいというお願いをしてきたとのことでした。

どちらも、誰かが決めたり、誰かに言われたりしたことなく、自分で考え、自分で決めた行動です。これが「主体性(的)」です。一方、「自主性(的)」は他人が決めたことを進んで行う時に使うそうです。そうすると、2つの違いは、「誰が決めたことなのか」にあるようです。

「今のうちの子には主体性はないなあ」なんて言わないでくださいね。赤ちゃんの時は目にするものすべてに興味津々で、それこそ「主体的」に触ったり、登ったり、口に入れたりして、当時はとても冷や冷やしたという記憶があるのではないのでしょうか。ですから、人は誰でも元々「主体性」を持っていて、もし今その様子があまり見られないという時は、食欲と同じで少ししぼんでいるだけだと考えればいいわけです。未来を生きる子どもたちにはその「主体性(的)」がとても大切だと考えられています。コロナ感染症や生成AIのように、その先の答えは誰もわからない、大人が答えを持っているとは限らないからです。

では、どうすれば「主体性」を育むことができるのでしょうか。

1つ目は「**どうしてだろう?**」という問いと「**どうすればもっと良くなるだろう?**」という**アイデア**、つまり**自分の頭で考えること**、2つ目は**自分で決めること**＜自己決定＞の**習慣**をつけることだと思います。

まず、お子さんがこれから何をしたいか、今どんなふうに考えていて、どんなことを聞きたがっているのか等、お子さんといろいろな話をたくさんして、お子さんを一層理解することを大事にしたいです。そして、**自分の頭で考え、自分で決めること**を保障してあげたいですね。上手くいかないこともありますし、やり直したい時もあります。試行錯誤をくり返している過程が「主体性」を育てていると考えれば、温かい目でじっと見守ることも大人の役目です。

子どもが主体的に行動しているのは自立に向かっている証ですから、大人は子ども自身が自分の主体性を大事に育ていけるよう後押しする存在でありたいと思うのです。

文化の秋・学びの秋 真っ盛り

魂を揺さぶる けやき太鼓

創立20周年の年にスタートしたけやき太鼓は、今年で27年。長い間、大人太鼓のみなさんに支えられ、様々な手ほどきを受けながら、今日まで受け継がれてきました。

10月19日(土)に江南公民館祭りで、先週8日(金)には東北音楽教育研究会が開かれた山形テルサで、堂々と演奏してきました。まさに魂を揺さぶるような太鼓の音が会場に響き渡り、多くの人々から大きな拍手と称賛をいただきました。安堵感と満足感、充実感でいっぱいの子どもたちでした。

年が明けた2月4日(日)にはサークルフェスティバルで演奏を披露します。今後のがんばりがまた楽しみです。



会場と一体 金管バンド

第51回山形市小学校吹奏楽発表会が市民会館で開かれました。リズムに乗って演奏された「学園天国」は、会場からの手拍子ももらい、ステージと会場がひとつになった素晴らしい演奏となりました。全校生の前で演奏した前日の壮行式からさらにギアを上げ、素晴らしいサウンドを披露することができ、大満足の子どもたちでした。

来年1月25日(土)に開かれる東北バンドフェスティバルに参加することも決まり、一層すてきな音楽を奏でるチャンスをいただきました。今度は東北のみなさんと一体になれるよう、部員みんなでがんばっていきます。



3年生社会科見学「本物にふれ 大いに学ぶ」

3年生はこの秋、本物に触れることを通していろいろなことを学びました。郷土資料館では様々な道具を手に取り、昔の人々の知恵や工夫に思いをはせました。消防署では、実際に消防服を着させて



ていただいたり、普段見ることのできない通信指令室や消防自動車の内部を見学したりして、その重さや大変さを実感しました。今週は、「山形セルリー」を育てている半澤さんの畑におじゃまして、小さな種をまいてから半年以上、暑い夏の間もたくさんの手間暇かけて育てた「山形セルリー」の収穫の様子を見学させていただきました。品質管理の難しさと収穫の喜び、自然相手の仕事の尊さを教わりました。

本気で働く大人の話は説得力があります。本物が持つすごさや立体感、なおいに至るまで、五感を通した学びは子どもの思考と心を豊かにしてくれます。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。



学校の様子について随時ホームページでお知らせしています。ぜひご覧ください。

